

2020 年 11 月 20 日

【A.T. カーニー 2020 年グローバル都市調査】

**世界の都市指標ランキング1 位は今年もニューヨーク。東京は同指標で8 年連続4 位、
将来有望な都市ランキングでは 6 位から 4 位に上昇し、過去最高位に**

本プレスリリースは、2020 年 11 月 18 日に A.T. Kearney より米国で配信された英語版の抄訳です。

経営コンサルティング会社A.T. カーニー（東京都港区、日本代表：関灘 茂）は、都市の競争力、影響力そして将来の有望性を評価してランク付けする「グローバル都市調査」を実施、最新の結果を発表した。

本調査は、都市の現在のパフォーマンスを評価する「グローバル都市指標（Global Cities Index: GCI）」と、将来の有望性を分析する「グローバル都市展望（Global Cities Outlook: GCO）」の2つで構成される。

- **グローバル都市指標**（Global Cities Index: GCI）は、2008 年より始まり、今回で 10 回目を数える。全世界 151 の都市を、「ビジネス活動」「人的資源」「情報流通」「文化的経験」「政治的関与」の 5 つの観点から 29 の評価基準をもとに総合的にランクづけしたものだ。同調査の結果は、都市の国際度、パフォーマンス、発展水準の指標となる。上位 4 都市は 2017 年以降 4 年連続同じ顔触れであるが、今回 5 位にランクインした北京は、評価額が 10 億米ドル以上のユニコーン企業の多さが寄与し、昨年の 9 位から大きく順位をあげた。4 位の東京は堅調なビジネス活動が評価されているものの、首相の交代がもたらす影響は未知数、と本調査報告書で述べられている。
- もうひとつの指標、**グローバル都市展望**（Global Cities Outlook: GCO）は、都市の将来的な有望性を評価したもので、今回で 6 回目を数える。全世界 151 の都市を、「個人のウェルビーイング」「経済」「イノベーション」「ガバナンス」の 4 つの観点にまたがる 13 の主要な評価基準の変動率をもとに、各都市の将来的有望性を評価している。首位は、昨年に続きロンドン。今回 2 位にランクインしたトロントは、イノベーションの拡大と強いガバナンスが寄与し、昨年の 11 位から大きく順位を上げた。今回 4 位となった東京は、個人のウェルビーイングが評価され昨年の 6 位から順位を上げた。注目すべきは中東のアブダビ（前回 20 位から今回 7 位）とドバイ（前回 32 位から今回 18 位）で、ともに長期にわたる投資が経済的に多様化・高度化をもたらしていることが評価された。

2020 年 A.T. カーニー グローバル都市調査ランキング

※ 調査対象全 151 都市中、ランキング上位 25 都市のみ抜粋。括弧内は、昨年との比較

グローバル都市指標
Global Cities Index

順位	都市名
1	ニューヨーク (-)
2	ロンドン (-)
3	パリ (-)
4	東京 (-)
5	北京 (+4)
6	香港 (-1)
7	ロサンゼルス (-)
8	シカゴ (-)
9	シンガポール (-3)
10	ワシントン DC (-)
11	シドニー(-)
12	上海 (+7)
13	サンフランシスコ (+9)
14	ブリュッセル (-2)
15	ベルリン (-1)
16	マドリッド (-1)
17	ソウル (-4)
18	メルボルン (-2)
19	トロント (-2)
20	モスクワ (-2)
21	ボストン (-)
22	ウィーン (+3)
23	アムステルダム (-3)
24	ミュンヘン (+8)
25	ブエノスアイレス (-1)

グローバル都市展望
Global Cities Outlook

都市名	順位
ロンドン (-)	1
トロント (+9)	2
シンガポール (-1)	3
東京 (+2)	4
パリ (-)	5
ミュンヘン (+2)	6
アブダビ (+13)	7
ストックホルム (+2)	8
アムステルダム (-5)	9
ダブリン (-1)	10
サンフランシスコ (-8)	11
シドニー (+1)	12
モントリオール (+10)	13
ベルリン (+2)	14
ボストン (-8)	15
ジュネーブ (-4)	16
ルクセンブルク (前年調査対象外)	17
ドバイ (+14)	18
メルボルン (-5)	19
コペンハーゲン (-3)	20
ウィーン (-3)	21
チューリッヒ (-7)	22
シカゴ (+15)	23
パース (前年調査対象外)	24
バンクーバー (-6)	25

本調査報告書の共著者でA.T. カーニーパートナー Rudolph Lohmeyer のコメント

「パンデミックの影響は数か月後あるいは数年後にならなければ完全には把握できませんが、すでに世界中の各都市に新たな課題と機会をもたらしています。これまでとは違う現実に向き合い、回復するためには以前とはまったく異なるかもしれない戦略的な選択と投資を行う必要があるのです。」

それぞれの都市は必然的に、地理的要因、人口動態、産業力の変化に適応することが求められるが、特に3つの重要な分野で革新的な発展を推進する必要がある。

- **Urban value creation**（都市の価値創造）：不確実な将来において競争力を確保するために、社会のすべてのセクターとセグメントにわたる公益を中心に、公共の価値の創造に焦点を当てる必要がある。
- **Global city connectedness**（グローバルな都市のつながり）：グローバルな都市の魅力と影響ある商品、アイデア、人々の国境を越えた交流を維持し、つながりを活性化し、拡大する必要がある。
- **Transforming urban space**（都市空間の変革）：パンデミックによって明らかになった物理的空間における多くの課題に対処するために、生活環境をより持続可能で、回復力があり、包括的にする方法で都市計画を再考する必要がある。

本調査報告書の共著者でA.T. カーニーパートナー Antoine Nasr のコメント

「今回のグローバル都市調査は、都市が危機に陥った時の立ち位置を写し取ったものです。現状、すでに大きな変化があり、過去には戻れません。アフターコロナの生活、そして未知の未来に備えるうえで、都市を評価する際の参考となるでしょう。」

※ **本調査報告書全文（英語）はこちらから**

<https://www.kearney.com/global-cities/2020>

本件に関するお問合せ先：

A.T. カーニー 広報担当 久々江（クグエ）

電話：03-6890-5420

メール：Japan.PR@kearney.com

A.T. カーニーは、40ヶ国以上に拠点を有する世界有数のグローバルな経営コンサルティングファームです。

1926年の創業以来、世界の有力企業・組織の信頼されるアドバイザーであり続けています。A.T.カーニーはパートナーシップ制度を採っており、顧客の最重要課題に対して短期的な成果をもたらすと共に持続的な成長を支援することをお約束します。詳しくは Web サイトをご覧ください。www.jp.kearney.com